

●本校における評価活動のとらえ

学校教育目標

ふるさとを想い 夢と志をもち あしたを拓く児童の育成

研究主題

自己肯定感を高め、よりよい生き方を考える児童の育成
～ねらいにせまる道徳の授業づくり～

研究内容

- (1) 45分の中で新たな学びが必ずあるねらいの明確化
- (2) 「考え、議論する」ための発問になるために
- (3) 多様な指導方法の工夫
- (4) つながり合いを大切にした授業づくり
- (5) 道徳の時間と他教科や体験活動とを関連させた効果的な道徳教育
- (6) 平成30年度からの教科化に向けた評価の在り方

道徳科における 評価の基本的な考え方

児童側から見れば・・・

自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの

教師の側から見れば・・・

教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料

- 数値による評価はしない。
- 他の児童との比較による評価でなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う。
- 学習活動において児童が、より多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を見取る。
- 道徳科の学習活動における児童の具体的な取り組み状況を一定のまとまりの中で見取ること。

【平成28年度7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告参照】